

第1回会議におけるご意見への対応案について

1. 次期創生総合戦略テーマに関すること

〈現行戦略テーマ〉

一人ひとりの幸せと確かな暮らしのあるふるさと岐阜県を目指して

〈委員意見〉

◆現行テーマの維持に関連するご意見。

- ・現段階では項目や柱に大きな変化はないため現行のままでよいような気がする。今後作業する中で、あるいは最終段階で点検して変えるべき点があればそこで考えるべき。【上手委員】
- ・「～を目指して」という形で締めるのであれば、その前に来るのは目指す岐阜県像。岐阜県が目指している「一人ひとりの幸せと確かな暮らし」は非常に明確であり、修正する必要はないように思う。【松川委員】
- ・（「ともに」といった言葉を加えることに対しては）テーマとしてはベースとなるものを打ち出し、「共創社会の実現」などは柱の中で示すことも一案。【林委員】

◆現行テーマの修正に関連するご意見。

●相互の関係性やつながりを表現してはどうか

- ・現行テーマは、綺麗な言葉が並んでいるが、一人に集中した大きな形から一人ひとりを見ており、相互の関係が見て取れないと感じる。

例えば「ともに」「共創」「共生」「支えあう」といった相互に目指すという感じが読み取れる言葉が入っているといい。「自分を取り残されていない」「自分が誰かに支えられている」「自分も誰かを支えている」という感覚が読み取れるテーマだとよい。【小島委員】

●「誇り」「希望」という言葉を盛り込んでどうか

- ・（「ともに」などに加え）誇りが持てるふるさとにということを考え、「誰もがともに支えあい、誇れるふるさと岐阜県を目指して」や「明日への希望が持てる」といった言葉はどうか。【小島委員】
- ・ふるさと岐阜県の「誇り」や「希望」といった言葉をテーマに入れた方がいいのではないか。【村瀬座長】

- 「豊かに」という言葉を盛り込んでどうか
 - ・テーマに「豊かに」を加えるのも一案である。【吉田委員】
- 現行テーマを微修正してはどうか
 - ・テーマは余り長くない方がよいため、「一人ひとりの幸せと確かな暮らしの【ある】ふるさと岐阜を目指して」の「ある」は不要ではないか【林委員】

【ご意見への対応案】

- ・以下により、現行テーマの大枠は維持しつつ、「ともに」という言葉を加えて、

『幸せと確かな暮らしのあるふるさと岐阜県をともに目指して』
としてはどうか。

- ・戦略改訂の基本方針として、現行戦略の大枠は変えず、3本柱は維持することとしたため、テーマについても大幅に変える必要はないのではないかと。
- ・一方で、改訂に向けた議論の中で、ウィズコロナを乗り越えるため、また、アフターコロナを見据えて発展を目指す上で、「支えあい」や「連携」といった「つながり」の必要性を強調するご意見を多くいただいた。
- ・これを踏まえ、骨子案にも、「1（3）誰もがともに活躍できる共創社会」や、「2（2）③ 孤独・孤立対策の推進」などの項目建てをするとともに、「清流の国ぎふ」文化祭2024のキャッチフレーズである「ともに・つながり・みらいへ ～清流文化の創造～」を意識した項目として、「3（1）地域の魅力・清流文化の創造・伝承・発信」と打ち出すこととしたところ。
- ・このため、「相互の関係性やつながりを表現してはどうか」とのご意見を踏まえて、「つながり」を強調するため、「ともに」を加え、「一人ひとり」を削除し、『幸せと確かな暮らしのあるふるさと岐阜県をともに目指して』としてはどうか。

- ・なお、その他のご意見については、以下により、修正しないこととしてはどうか。

● 「誇り」「希望」という言葉を盛り込んでどうか

- ・ 現行テーマは、長期構想のテーマ「希望と誇りの持てるふるさと岐阜県を目指して」を発展させ、県民一人ひとりに重点を置き、県民が幸福感や安心感を得ながら暮らせる岐阜県づくりを目指したもの。
- ・ 「希望」「誇り」は大事な言葉ではあるが、長期構想からの連続性を踏まえれば、元に戻すようなイメージにしない方がよいのではないか。

● 「豊かに」という言葉を盛り込んでどうか

- ・ 現行テーマについては、「満足感、幸福感、安心感を持ちながら暮らしていける」ことを表現するものとして設定された経緯がある。
- ・ このため、「幸せと確かな暮らし」には、「豊かに」というニュアンスも含まれているものと考えられることから、修正しないこととしてはどうか。

● 現行テーマを微修正（「ある」を削除）してはどうか

- ・ 「ある」という言葉を削除すると意味合いが変わってしまうので、修正しないこととしてはどうか。

2. 骨子素案に関すること

◆ 未来を支える人

<ご意見>

- 「1（1）未来を支える人」にぶら下がる項目を「①④⑤⑦」と「②③⑥」の2つに分けてはどうか
 - ・ 1（1）の「①地域や企業等と連携したふるさと教育の展開」、「④地域の声を反映した産業教育の展開」、「⑤幼児期から高等教育までの切れ目のない教育の展開」、「⑦学校教育と社会教育との連携」について、例えば「（1）つながる教育」として別項目を立てて柱を独立させ、「②デジタル社会に対応した教育の展開」、「③SDGsを推進する教育の展開」、「⑥グローバル社会に対応した教育の展開」は「（2）未来を支える人」としてまとめることによって、堅実に進めていくものと最先端に触れるものを分けてはどうか。【林委員】
 - ・ 林委員の意見のとおり、1（1）は7項目となり、デジタル化やSDGsといった未来志向の部分と、現実としてやらなければならない部分に分けることは可能。柱を分けてもいいのではないか。【上手委員】
 - ・ 1（1）①④⑤⑦は岐阜県のなかでの人づくり、②③⑥は未来へ繋がる人づくりとして、まとめることができるという林委員の意見に同意する。思い切って二つに分けてもよいのではないか。【小島委員】
- 「大事にすべきもの（教育の内容）」と「どのように行うか（環境など）」の2つに分けてはどうか。
 - ・ 岐阜県の人づくりが何を大事にするのかということと、それをどのように行うのか（やり方）が混然一体となっているため、まとまりが悪く感じるので、これを分けるということもあるのでは。【松川委員】

【ご意見への対応案】

- ・ 以下により、「人づくりの基盤として推進すべき項目＝①④⑤⑦」と「時代や社会の変化に対応するために推進すべき項目＝②③⑥」の2つに分け、前者は、「（1）未来を支える人」として項目を維持し、後者は、「（2）未来を創る人」として新たな項目を新設してはどうか。

- ・「①④⑤⑦」と「②③⑥」の2つに分けてはどうか、とのご意見を集約すると、時代や社会が変化する中で「人づくりの基盤として推進すべき項目＝①④⑤⑦」と「時代や社会の変化に対応するために推進すべき項目＝②③⑥」に分けることができるのではないか。
- ・「①④⑤⑦」については、いずれも現行戦略で「(1) 未来を支える人」に位置づけられている項目であることから、引き続き「(1) 未来を支える人」と整理し、「②③⑥」については、②デジタル、③SDGsが新規項目であるため、「(2) 未来を創る人」と新たに打ち出してはどうか。

(1) 未来を支える人

- ①地域や企業等と連携したふるさと教育の展開
- ④地域の声を反映した産業教育の展開
- ⑤幼児期から高等教育まで切れ目のない教育の展開
- ⑦学校教育と社会教育との連携

(2) 未来を創る人【新設】

- ②デジタル社会に対応した教育の展開【新設】
- ③SDGsを推進する教育の展開【新設】
- ⑥グローバル社会に対応した教育の展開

- ・なお、「大事にすべきもの（教育の内容）」と「どのように行うのか（環境など）」の2つに分けた場合、例えば以下のとおり整理することが考えられるが、この場合、「項目数がアンバランスになること（(1)が5項目、(2)が2項目）」、「(2)として中項目を新設するにもかかわらず、ぶら下がる項目には新規性がない」といった課題が残ってしまう。

(1) 未来を支える人

- ①地域や企業等と連携したふるさと教育の展開
- ②デジタル社会に対応した教育の展開【新設】
- ③SDGsを推進する教育の展開【新設】
- ④地域の声を反映した産業教育の展開
- ⑥グローバル社会に対応した教育の展開

(2) きめ細かな学びの環境【新設】

- ⑤幼児期から高等教育まで切れ目のない教育の展開
- ⑦学校教育と社会教育との連携

◆ 生活を支えるインフラの整備

<ご意見>

- ・「2（3）⑤ 生活を支えるインフラの整備」について、DXやデジタル関係、エネルギーを統合した次世代の社会のためのインフラ（通信環境や水素ステーションなど）なのではないかと思う。表現を工夫してはどうか。【野々村委員】

【ご意見への対応案】

- ・本項目は、通信環境や水素ステーションなどの「次世代の社会のインフラ」のみならず、道路・河川・砂防施設・公共施設などの一般的な社会インフラを含め、「生活を支えるインフラ」として整理してきている。
- ・今回の見直しにあたって、この整理が変わるものではないことから、修正なしとしてはどうか。
- ・なお、本編において、こういったインフラに関する施策を位置づけているか分かりやすく記載することとする。

◆ 「脱炭素社会ぎふ」の実現

<ご意見>

- ・脱炭素社会ぎふの実現というところは緩和だけで、適応というところが入っていないと思う。可能であれば「脱炭素社会」と「適応」という2つを1つにまとめていただいても結構なので配慮いただきたい。【野々村委員】

【ご意見への対応案】

- ・『脱炭素社会ぎふ』の実現については、温室効果ガスの排出抑制を図る「緩和」と気候変動の影響による被害の防止・軽減を図る「適応」の両方の要素を含むものとして整理しているため、修正しないこととしてはどうか。

◆ 「スポーツ立県・ぎふ」の推進

<ご意見>

- ・「誰一人取り残されない」ではなく、「誰もが親しめる」「誰もが参加できる」といった言葉で補うことはよい。【上手委員】

【ご意見への対応案】

- ・「誰一人取り残されない スポーツ立県・ぎふ」は、第2期 清流の国ぎふスポーツ推進計画の基本目標であり、「子どもから高齢者まであらゆる世代の県民が、それぞれの関心、適性等に応じて、多様なスタイルでスポーツを『楽しみ』、スポーツの持つ力で生涯にわたり『健康と生きがい』を得られる「清流の国ぎふ」の実現」という趣旨。
- ・このため、「誰一人取り残されない」を、その趣旨がより分かりやすい表現に変える場合、「誰もが親しめる」に加え、「健康と生きがいを得られる」を表現する必要がある。

例：誰もがスポーツに親しみ、健康と生きがいを得られるスポーツ立県・ぎふ

- ・この場合、他の項目に比べ、表現が冗長になってしまうので、事前の意見照会で、「シンプルでいいのでは。」といったご意見もいただいていたことから、修正しないこととしてはどうか。

◆ その他の修正

※会議後にいただいたご意見への対応案

＜ご意見＞

- ・「雇用・企業活動の維持・再生」、「県内産業の活力の強化・新事業展開の推進」について、「・」の前後の繋がりが分かりにくい。【上手委員】

【ご意見への対応案】

- ・「・」の前後の繋がりを、より分かりやすくするため、以下のとおり、修正することとしてはどうか。

「2（2）④ 雇用・企業活動の維持・再生」
⇒ 「雇用・企業活動の維持再生」に修正

「3（2）③ 県内産業の活力の強化・新事業展開の推進」
⇒ 「県内産業の活力の強化と新事業展開の推進」に修正